

歯科医師としてのドク ホリデイ

A Dentist, Doc Holiday

東京歯科大学 学長, 歯科麻酔科教授
金 子 讓

Yuzuru Kaneko, Tokyo Dental College, Dean, Professor of Dental Anesthesiology

「ジョン・ヘンリー」向き直らないで彼が言った。声の主は淡いブロンドの髪の非常に痩せた男だった。(略)彼にはなにか都会的な雰囲気があって、その優雅な物腰は騒々しい酒場にそぐわないように思える(ロバート・B・パーカー：ガンマンの伝説, 早川書房)。

ジョン・ヘンリー・ホリデイは西部開拓史のなかでガンマンとして名を残している人物である。彼はワイアット アープの友人として1881年10月にアリゾナ州トゥムストーンのOK コラルとともにヴァージュール家を殺したことで今日東洋のわれわれまでもドク ホリデイとして知るにいたっている。

アープは、80歳でロス アンジェルスで亡くなっていて、荒々しい西部に生きた人間としては驚くほどの長生きであった。一方ホリデイは、1887年11月8日にコロラド州グレンウッド スプリングで、肺結核のために36年の短い生涯を閉じている。

西部ガンファイト時代とは、狭義には南北戦争が終わって職にあぶれた男たちが西部に流れていきだした1865年から、近代文明が広まっていった1890年代のほぼ25年間とされている(東 理夫)。この時代の西部は法を守るのも破るのも銃によっていて、保安官でもアウトローでもその中身は同じで銃であり、正義感という精神の持ち方と立場とは一致しないのが当時のようである。

ホリデイの運命を変えさせ、後半生に西部ガンファイトの中で生きざるをえなかったのは肺結核によっている。彼は銃の使い手として伝わっているが、それはギャンブルで生計をたてていたためである。

彼の物腰、言葉、マナー、教養、雰囲気から誰

でもが感じたように、彼はアメリカ南部のしっかりした家庭の育ちである。彼は、1870年9月19歳のとき北部にあるペンシルヴェニア カレッジ オブ デンタル サージェリイに入学し、72年3月に卒業しDDSの称号を授与されている。彼が、歯科医師を志したのは医師である叔父のすすめによった。

1865年にリンカーンが勝利した南北戦争は、南部を荒廃させ、医師はいかさまのにせ医者と日々の診療で競争せざるを得ない状況で、医師としての夢がなくなっていた。しかし、新しい領域として確立してきた歯科は、医師をしのぐ尊敬される職業となってきた。叔父には歯科がこれからさらに伸びる職業として映った。

ホリデイは、卒後ジョージアに帰り、地元の高名な歯科医師の下で診療に携わっていたが、73年の夏には咳に悩まされ、診療をときどき休まざるを得ないほどに結核は進んだ。

暖かい乾燥した西部で療養するためにその9月にはグラスに向かって西部太平洋鉄道で、家族、親戚に見送られて旅立った。グラスでは診療もできるように働かせてもらう歯科医院から返事も得ていた。

しかし、鉄道が西部大平原を進むにつれてジョージアの有望な青年歯科医師として夢見た将来は消え去り、8年後に人々の前に現れたのは後世記録に残るガンマンとしての姿であった。

ホリデイの生涯36年間は、全身麻酔黎明から局所麻酔発見直後までにあたる。

ホリデイは、生後8週のときに不完全口唇口蓋裂の手術を受けている。このときの手術と麻酔をしたのは1846年のモートンよりも2年早くエーテル麻酔をしていたとされるクロフォード ロン

グ医師である。ロングはホリデイの母の父親の従兄に当たる人で、母はホリデイの生後すぐにロングの指示を受けてホリデイを授乳による嚥下性肺炎にならないよう注意深く育てている。この母親はホリデイ 15 歳のときに 37 歳の若さで肺結核によって亡くなっている。

ホリデイは、信義を守る男として常に登場して

いる。これは彼の性格でもあったろうが、前半生の生活環境を荒れた人生のなかでも大事にするための信条ではなかったかとも想像する。

講演では、ホリデイの生きた時代を背景に、当時の歯科の状況をみながら歯科医師としてのホリデイという人物を考察してみたい。